

5・29 アメリカ大使館弾劾行動への

でっち上げ逮捕徹底弾劾

——パレスチナ人民連帯・ジェノサイド阻止の
闘いに対する弾圧を許さず闘おう——

解放派弾対部

東京都杉並区下高井戸 1-34-9 (03-3329-0167)

▲5・29 でっち上げ逮捕を弾劾する

5月29日午後3時過ぎ、解放派の部隊はアメリカ大使館弾劾の闘いに決起した。この過程で同志1名が「公務執行妨害」で逮捕された。

アメリカ大使館前に青ヘルメット・青ゼッケンの部隊が突如登場したことにあわせて、10分近く何もできなかった機動隊が、同志たちを包み込み分断し小突き回しながら外堀通り、地下鉄虎ノ門ヒルズ駅近くまで、500メートル以上を引きずり回した。同志たちはこれを強く弾劾し続けた。これがすべてだ。全くのでっち上げ逮捕だ。

▲6・6、現代社搜索弾劾 反革命キャンペーンを許すな

6月6日には、この逮捕を口実として、現代社ビルに対する不当搜索が強行された。われわれの活動に対する破壊と、活動妨害のための「押収」=略奪が目的だ。

そして報道各社は、「イスラム過激派ハマスと戦っているイスラエルに抗議する行動」(読売)などとジェノサイド支持を表明し、イスラエル大使館・アメリカ大使館に対する闘いへ

の憎悪をまき散らしている。
これを許さず闘おう。

▲パレスチナ人民と連帯して闘おう

このでっち上げ逮捕は、アメリカ大使館弾劾行動への報復弾圧であり、実力・武装の闘いとして爆発することに恐怖した攻撃だ。

5・29 弾圧に続き、6・7 には、イスラエル大使館前で権力の規制に抗議した隊列の一名が、これも「公務執行妨害」という口実で不当逮捕されている。

これらはジェノサイドと一体の反革命弾圧だ。イスラエル軍・政府、そして米帝に対して、全世界で拡大している闘いへの、恐怖と憎悪に突き動かされた弾圧だ。断じて許すことはできない。

パレスチナ人民と連帯して闘おう。〔写真は、5月29日アメリカ大使館前〕



▲弾圧に徹底反撃しよう

逮捕された同志は、権力による指紋採取・写真撮影に断固として抵抗し、「取り調べ」という名の転向攻撃への呼び出しにも一切応じず闘っている。警視庁公安部・留置警察署は、同志を暴力的に車椅子に乗せて東京地検・地裁に引きずり出したが、同志は「取り調べ」への連行をすべて拒否して闘っている。

逮捕翌日の5月30日、解放派をはじめとした闘う仲間たちは、同志が留置されている警察署に対する弾劾一獄中同志との連帯・奪還の闘いを展開した。獄中の同志もシュプレヒコールで呼応した。警察はこの闘いに対する報復として、同志を翌日まで監獄内の監獄＝「保護房」にたたき込み、布団もないままに一晩放置するという獄中テロを強行した。

権力の獄中暴行を許すな。完黙・非転向で闘う同志と連帯し、でっち上げ逮捕一勾留に対してともに闘おう。留置警察署・警視庁・東京地検・東京地裁に対する怒りの声を上げよう。

警察留置場は、権力による転向強要の場であり、でっち上げの温床であり、獄殺テロの実行場所だ。権力の治安弾圧機構の最先端である、警察・留置場・監獄の解体に向け、あらゆる怒りを総結集しよう。(2024/6/12)